

二〇二四年度
学校推薦型選抜
適性検査II

一 問題文を読んで次の問一〜問九に答えなさい。解答はすべて楷書で所定の解答用紙に記入しなさい。

何であれ働けば壊れます。壊れたらそれを、A を使って元の状態に直してやることを繰り返すと働き続けられるというのが生物のやり方です。

生物の体の中の主要な化学反応は、すべて回路（サイクル）をなしています。出発点の化学物質が変化をしながら、再度元の化学物質へと戻る回路を形成しているのです。食物からATP（注）をつくりだすクエン酸回路、光合成の中心にあるカルビン回路、タンパク質の分解産物から尿素をつくる尿素回路（オルニチン回路）、等々、回せば続くのです。

一回まわすには一定量のエネルギーが必要です。体の中の化学反応も、体そのものも、くるくる回りながらずっと続いていくとするのが生物のやり方です。その回転速度が生物の時間の速度です。だから生物の時間の進む速さはエネルギー消費量に比例しているのだと私は考えています。

⁽¹⁾ 生物の時間は、エネルギーを使えば使うほど速く進みます。

これは社会生活の時間にも当てはまるのではないのでしょうか。

蒸気機関により製品がすばやく作れ、汽車や蒸気船によりすばやく物を運べるようになりました。産業革命は、機械を使って時間を短縮したという面をもっています。そして蒸気機関は、動かすのに石炭という形のエネルギーを使います。だからこれはエネルギーを使って時間を速くする機械だと見なせるでしょう。

こういう視点から見ると、車も飛行機も携帯電話もコンピュータも同じです。これらは便利な機械であり、便利とはそれを使えば速くできてしまうものです。人力だけでやっていけばゆっくりのところを、機械を使えばサツとやれて時間が短縮されます。車やコンピュータなどの時間短縮装置が、ものすごく重要になってきたのが現代社会であり、時間はエネルギーを使えば使うほど速くなるという、動物で見られた関係が現代社会の時間においても成り立っているとしてみ違いないと私は思います。

機械は作るのにも動かすのにも、多大なエネルギーを必要とします。またこれらは、送電網、鉄道網、道路網、通信網と、インフラがあつてこそ効率よく働けるものであり、その整備と維持にも、莫大なエネルギーがかかっています。現代社会は、組織的にエネルギーを投入して社会の時間を速めている点に、最大の特徴があると言えないでしょうか。

速くできるのが便利であり、コンビニエントなこと。街角ごとにコンビニができ、24時間、思い立った時に即座に買い物ができる社会をわれわれは作り上げました。飢えもペストも結核もなくなり、平和になった社会では、便利なのが、幸せにつながることなのです。一般家庭で、家屋を除けば一番高価な物品は車でしょう。しょっちゅう買い換えているのがコンピュータと携帯電話。それほど時間を速めることをわれわれは重視しているのです。

動物においては、時間の速度はエネルギー消費量に正比例するのですが、社会の時間もやはりきっちり正比例なのでしょう。自動車の4サイクルエンジンは、2回転ごとに一定量のガソリンを爆発させますから、回転速度、つまり時間の速度はエネルギー消費量に正比例しています。コンピュータのCPU（中央演算処理装置）は、1動作ごとに一定量のエネルギーを使います。1秒間に何動作をするかがCPUのクロック数で、これがコンピュータの速度を決めているのですから、コンピュータの速度はエネルギー消費量に正比例しています。

もちろん現実はそのほど単純ではなく、クロック数を上げればそれだけ熱が出て、冷却する余分のエネルギーが必要ですし、車も速く走れば空気抵抗が増しますから、それだけ燃料も余計に食います。

細かいことを言えばそうなのですが、大まかには、車やコンピュータの時間の速度はエネルギー消費量に比例していると言ってよいでしょう。そういう機器で社会の時間が速くなっているのですから、社会の時間の速度もエネルギー消費量にほぼ比例して速くなると考えられるのではないのでしょうか。

世はビジネスの時代です。ビジネスとは busy + ness 忙しいことです。エネルギーを注ぎ込んで時間を速める、つまり忙しくするとお金になる、これが「時は金なり」というビジネスにおける **B** でしょう。ビジネスとは時間を操作することなのです。

そして消費とは、お金を出して時間を買うことでしょう。お金を出して車とガソリンを買えば時間が速くなり、同じ24時間内にさまざまなことができるようになります。お金を出して電気を買えば、夜でも仕事ができ、インターネットで情報が即座に手に入ります。夏は暑いと言つてうだうだし、冬は寒いと言つて縮こまってなにもしないでいたところを、電気代を払つてエアコンデিশヨナーを動かせば、快適な環境下でぱりぱり仕事ができるようになります。エネルギーを使えば不活発な時間を活発な速い時間に変えられるのです。

近年、寿命が大幅にのび、それに応じて定年をのばす企業がふえています。寿命がのびたのは医療・製薬という、かなりのエネルギーを使う技術のおかげです。だから現代人はエネルギーを使って、死という最も不活発な時間を、活発なビジネスの時間に変えているのだともみなせるでしょう。

ビジネスにおいては「エネルギー↓時間↓金」、そして消費においては「金↓エネルギー↓時間」と、現代社会は金とエネルギーと時間とが三つ^{どもえ}巴^みになって回っているのだと私は見えています。⁽⁴⁾そんなふうにして時間を操作しているのが現代人なのです。しかしそうは考えられていません。時間そのものは何をしても変わらないと人々は思っているからです。ここが現代人の大いなるムジ^{b)}ンであり、自分が何を一所懸命にしているのかが見えていないのです。見えなくさせているのが古典物理学的な時間の見方です。

そのムジ^{b)}ンから生じてくる問題を指摘しましょう。

世の中はどんどん速く便利になってきました。しかし、速くなればそれではいいのかは考えてみなければなりません。

われわれ現代人は大量のエネルギーを使っています。どれだけ使っているかは、ふつう、石油換算何バーレルという数値で示されますが、それでは実感が湧きません。

そこで、われわれの体を使っているエネルギーの何倍かで表してみましよう。すると、われわれ一人一人が、体の使っているエネルギーの約30倍を、電力やガソリンの形で使っていることがわかります。

社会生活の時間の速度もエネルギー消費量に正比例すると仮定すると、現代人の生活時間は、縄文時代（食べものからエネルギーを得る以外にはほとんどエネルギーを使っていなかった時代）の30倍速くなっていることになります。

しかし、心臓の拍動は縄文人と違ってはいないはず。なぜなら、ヒトと同じ体重のヒツジの心拍と、われわれの心拍とは同じであり、現代人といえども、**C**で体は動いているのです。決して心拍数が上がっているわけではありません。体の時間は昔のままなのです。そして社会の時間が**d**ケタ違いに速くなりました。

そこで根本的な疑問が湧いてきます。

「そんなに速い社会の時間に、体が無理なくついていけるのだろうか？」

私たちはこれだけ豊かで便利になったのですが、「幸福度」がいま一つ上がってはいません。朝の通勤電車では、みんな疲れた顔をしています。子どもたちの目も輝いていません。

その原因が、社会の時間と体の時間との間の、大きなギャップにあると私は思っています。速い時間に置き去りにされないようにと精一杯で、いくら豊富に物があっても、それを堪能する余裕など持てないのです。速い時間に追いつけたとしても、それ続けることは疲れるし大きな**D**になるでしょう。追いつけなければ落ちこぼれだと落ち込んでしまいます。これでは鬱が増えるのももつともです。年間2万5千人もの自殺者が出ているのです。

技術者はより便利にしよう、より速くしようと日夜努力しています。しかし努力すればするほど、社会の時間と体の時間とのギャップはますます大きくなり、私たちはどんどん不幸になっていくというのが現実なのかもしれません。

昔は物も少なく、移動にも情報を集めるのにも、ものすごく時間がかかりました。そういう時代には、物の多い方がより速い方がより良いのはわかりきったことでした（物の多さにも、機械による生産時間の短縮と高速の輸送手段という、速くする技術が関係しています）。しかし今や物も情報もあふれる時代になってしまったのです。それにもかかわらず相も変わらず、もつと多くもつと速くをツイキユウしているのですが、そのやり方は、もう簡単には幸せに結びつかないのかもしれないかもしれません。

(本川達雄^{もとかわたつお}『人間にとって寿命とはなにか』による。出題の都合上、一部中略した箇所がある)

(注) ATP — アデノシン三リン酸。生物の筋肉の収縮などに使われる物質。

問一 傍線部(b)・(d)・(e)の片仮名を漢字にしなさい。

- (b) ムジユン
- (d) ケタ
- (e) ツイキユウ

(配点6点)

問二 傍線部(a)・(c)の漢字を平仮名にしなさい。

- (a) 維持
- (c) 拍動

(配点4点)

問三 空欄 A に入る最も適当な言葉を、本文中から五字で抜き出しなさい。

(配点3点)

問四 空欄

B

C

D

号を記入しなさい。
に入る最も適切な言葉を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、その番

(配点6点)

B

- ① 放言
- ② 金言
- ③ 苦言
- ④ 巧言
- ⑤ 流言

C

- ① サイズで決まる動物の時間
- ② 石油に換算できる時間
- ③ 縄文人より緩慢な時間
- ④ 便利さを享受する生活の時間
- ⑤ 穏やかな気持ちの時間

D

- ① スケール
- ② 疾病
- ③ 抑制
- ④ 抵抗
- ⑤ ストレス

問五

傍線部(1)「これは社会生活の時間にも当てはまる」とあるが、なぜ筆者はそのように考えるのか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。(配点5点)

- ① 現代社会で物資を再利用するなどして循環させる技術を活用し環境の破壊を遅らせるようにしていることが、生物が働いて壊れた部分を元の状態に戻すことを化学反応によってくり返しているのと同じであるから。
- ② クエン酸回路によって食物からATPをつくりだすサイクルがなかったならば生物が動くことができないことが、現代社会で車やコンピュータなどの機械がなければ生活が成立しないことと同じであるから。
- ③ 現代社会で使われている移動に便利な機械は省エネルギーにより効率化されているが、エネルギーを多く消費するほど速度が高くなるという点では産業革命の時代の蒸気機関によって動く機械と同じであるから。
- ④ 人間の文明が進んで社会生活を営むようになったもののヒトが生物であることに変わりはないので、体内で化学物質が変化をしつつ元の化学物質に戻るというサイクルが続いていることについては同じであるから。
- ⑤ 産業革命の時代以降エネルギーを消費すればするほど社会生活を営むために必要な時間が短縮されたことが、生物の体の中の化学反応の回転速度がエネルギー消費量に比例して高くなることと同じであるから。

問六

傍線部②「現代社会は、組織的にエネルギーを投入して社会の時間を速めている」とあるが、どういふことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。(配点5点)

- ① 昔の社会では家財道具や機械を長く大切に使う習慣があつたのに対し、現代ではコンピュータや携帯電話など家庭の機械を頻繁に買い換えるのが普通のことになっている、ということ。
- ② 蒸気機関の時代は単一の機械のエネルギー消費により時間短縮するのが主であつたが、現代ではエネルギーを社会生活に不可欠な多くのものに用いて時間を短縮している、ということ。
- ③ 産業革命以前は人力で動く機械がほとんどで個人が機械を使うのみだつたが、現代では企業が組織として機械を用いて効率よく生産や消費が行われている、ということ。
- ④ 蒸気機関の時代はエネルギーを使う目的が物を作ることや移動することに限られていたが、現代では社会として病いや戦争を防ぐ目的にも使用されている、ということ。
- ⑤ 昔の社会では蒸気や石油などを消費する内燃機関が主に使われていたのに対し、現代社会では送電のためのネットワークを必要とする電気が主なエネルギーとなっている、ということ。

問七

傍線部③「社会の時間もやはりきつちり正比例なのでしょうか」とあるが、社会の時間がエネルギー消費量に正比例しているかどうかについて、筆者はどのように結論づけているか、六〇字以内で説明しなさい(句読点を含む)。(配点10点)

問八 傍線部(4)「そんなふうにして時間を操作している」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の

①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。

(配点5点)

- ① 時間を実際よりも長く感じられるよう、快適に過ごすことのできる環境を現代の技術によって整え、見かけの効率を高められるようにしているということ。
- ② インターネットの発達により、お金を出してアクセスすることで自らが移動する必要がなくなり、仕事にとり組むことのできる時間を増やしているということ。
- ③ お金を出して買ったエネルギーを注ぎ込むことによって、仕事だけでなく社会生活の時間も速くなり、就労年齢や寿命までコントロールしているということ。
- ④ 不活発な時間をより多く活発な時間に変えることができるさまざまな製品を作り出すための技術開発に、エネルギーを大量に使っているということ。
- ⑤ かつては人の手がおよばなかった死さえ、お金を支払ってエネルギーを買いそれを使うことで、誰でも活発なものに変えているということ。

問九 本文の内容に一致しないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。

(配点5点)

- ① 生物の体の中で起きている主要な化学反応は、一定量のエネルギーが必要となるサイクルをなしており、その回転速度はエネルギー消費量に比例する。
- ② お金を出してエネルギーを買うことで間接的に時間を買っていることになり、そのようにして社会生活を享受することが現代の消費である。
- ③ 人間が時間そのものを変えることはできない、と考えるのが一般的だが、実際には現代人はお金を使うことによって時間に手を加えて生活していると言える。
- ④ 現代において鬱になったり自殺したりする人が多いのは、社会の時間が速くなるに従って体の時間も速くなることで、身体的な負担が増えていることによる。
- ⑤ 昔と比べて物や情報があふれる時代となった今、これ以上エネルギーを使って時間を速くしたとしても、われわれが幸福感を感じられるとは限らない。

二

問題文を読んで次の問1～問十に答えなさい。解答はすべて楷書で所定の解答用紙に記入しなさい。

山国の日本は耕地面積が少ない反面、降水量が多く、しかも土が肥えている。古来、日本に耕作のための奴隷が存在しなかったのは、そのせいである。世界の多くの国は、日本ほど土壌に恵まれていなかったために無理な耕作を強いられた。このためウシやラバ、ロバといった農耕用の動物を必要とし、さらにこれらの動物よりもよく言うことをきく労働力として奴隷が生まれた。

A 日本では、だいたいどこでも鋤くわひとつあれば家族が食べていけるくらいの作物をつくることができた。耕作地が限られているから、せせこましい農業ではあるけれども、大規模農業ではないため、耕作用にカチク(a)が必ずしも必要というわけではなく、まして奴隷は必要としなかった。結果的に自然環境に適応した多品種小規模農業が普及した。それも結局、土地が肥えていたからできたことである。

日本列島の土が農業に向いているのは火山のおかげで、火山灰に含まれるリン酸やカリウム、窒素が農作物の養分となる。火山列島の日本は、その十分な恩恵にあずかることができ、それほど無理をしなくても四〇〇〇万～五〇〇〇万の人口であれば食べていけるだけの豊かさをもっていた。日本文化の基盤に、まずこうした穏やかな農業の恵みがあったことを踏まえておきたい。日本の文化や社会に通底する、この穏やかさは、島国という地理的条件によって育まれたことも見逃せないであろう。

日本は四方を海に囲まれているおかげで、古来、外敵から侵略されたり徹底的に荒らされたことがない。太平洋戦争で敗北したが、終戦後、天皇制にはアメリカの占領軍も手をつけることができなかつた。天皇制は神話の時代から連綿と続く日本文化のいちばんの根幹部分であり、戦勝国のアメリカですら日本文化を蹂躪じゅうりゃくすることはできなかつたのである。このことで思い出されるのは、アフガニスタン紛争が一応の終結を迎えた二〇〇二年、カブールの国立アフガニスタン博物館の正面に「その国の文化が生きている限り、その国は生きていく」という垂れ幕が誇らしげに掲げられたことである。

日本文化が外敵から侵食されなかつたなよりの証拠が正倉院の宝物(1)であろう。あのような防衛機能もない木造建造物に、聖

武天皇、光明皇后ゆかりの宝物が長い年月にわたって保管されてきた。このようなことは海外では絶対にありえないことだと断言してもいい。海外であれば一度戦争が起きたら、あのような施設はたちまち破壊されて、収蔵物はそっくり盗まれてしまう。それが日本では古代から現在にいたるまで、何度かの戦いに巻き込まれたにもかかわらず残っているのは奇跡といってよく、なんとという平和で、穏やかな国であることか。およそ世界の常識では考えられないことなのである。

それゆえに過去の有力者や寺社などに代々受け継がれた伝世品の豊かさ。これは世界に冠たるものがある。

B 中国の舶来品は唐の時代から日本に伝わりはじめ、室町時代あたりからは日本から注文を出して中国で陶器をはじめとする工芸品が作られるようになったが、²⁾ そういう中国のすぐれた工芸品が日本にはいまもたくさん残っている。当の中国では故宮博物院などに収蔵されているものを除けば、伝世品としてのいいものはほとんど残っていない。むしろ日本のほうが中国文化の歴史を語る逸品がよく残っている。

I ヨーロッパでは、隠されたまま忘れ去られていた「遺宝」が見つかることがよくある。戦争になると徹底的に略奪されるため、防衛手段として宝物をひそかに隠しておく。それが後世、偶然発見されることがめずらしくない。こうした遺宝が日本で見つかることが少ないのは、それだけ戦争や略奪が少なく平和だった証拠である。

II 宝物の多くはその時代時代の権力者や神社仏閣あるいは金持ちから次の世代のかれらのもとへと転々としており、所有者を変えながら伝承されていくのが日本の宝物といえる。旧所有者との政治的、宗教的な対立が激しくないたため、旧所有者の名前を明示することによって伝世品の価値を高めることができた。

III 悔やまれるのは明治初年、日本全国に吹き荒れた^(注1) 廃仏毀釈の愚行で、これがなければより多くの貴重な文化財が残っていたにちがいない。パリにある東洋美術専門のギメ美術館には、日本の仏像が大量に所蔵されている。明治の廃仏毀釈のとき、ここに一万点強の仏像が一時避難させられたため、その後、結局そのままになってしまった。このように廃仏毀釈のときに散逸した仏像がどれほどにのぼるのか計り知れないほどである。さらに明治以降、海外から日本の文化財が大量に買い集められており、

それだけ海外に流出してもなお多くの文化財が残っているのである。

N

それも結局、もともとの日本社会の **X** に加えて、外来文化による侵食が小さかったからであろう。外来文化によって生活様式や思想が一気に様変わりすることは過去になかった。こういう国はやはり世界でもめずらしい。

V

C、だからといって島国日本では古来のピュアな文化が連続と受け継がれたかという点、決してそうではないのである。

外来文化による侵食が小さかったのは事実であるけれども、それは外来文化が来なかったわけではなく、日本にもそれは来ている。ところが日本の場合、それと敵対することなく、柔軟に受けとめて、いつのまにか既存の文化と融合させてしまうのだ。外来文化を異分子として排除するのではなく、そのときどきに入ってくる外来文化をいわば自家葉籠中のものとするごとく、うまく取り込んでしまう。要するに外来文化にたいして非常に柔軟性があり、それが日本文化のもうひとつの特徴で、かつユニークなところなのである。

そういう視点で日本の文化をナガめてみると、たとえば平安末期から鎌倉時代にかけて、**(c)** 運慶うんけいや快慶かいけいらの仏師により非常にリアルな仏像がつくられるようになるが、これは当時、中国で写実的な芸術表現がさかんになったためだ。その後、中国・宋そうの時代に朱子学を中心とした新しい儒学が隆盛になると、日本でも宋学の研究がさかんになるとともに五山文学のような知的で洗練された文化が栄えている。

そもそも六世紀に仏教が伝来したときも、日本の既存宗教とのあいだで大きな衝突は起きておらず、やがて神仏習合が生まれ、いつしか仏教寺院の境内に寺の守護神が祭られて鳥居が立つようになった。**(3)** 日本古来の神さまと大陸からやってきた仏さまが仲よく手を組んだのである。やはり大陸から伝わった漢字も万葉仮名になり、さらに平安時代になると、万葉仮名はひらがなに変化している。

日本人にかかると、外来文化をうまく咀嚼そしやくして、いつのまにか自分たちの都合のいいように変幻自在につくりかえてしまう。この柔軟性は見事というしかない。

江戸時代の鎖国下でも日本人は外来文化にはピンカン^(d)だった。当時、外来文化の数少ない伝達者のひとつが朝鮮通信使で、彼らが来日すると、江戸へ向かう街道筋の宿場ごとに、その地域の漢学者が自分の漢詩を持参して通信使に作品の添削^(e)を願っている。つまり、彼らを異国人というよりも知識人として見ており、柔軟性をもって彼らと接していたことがわかる。ただし、新井白石^(いばくせき)が登場するところには、わが国の漢学も朝鮮と同じレベルに達したようである。

戦後、大きな混乱もなく日本に民主主義が根づいたのも、この変幻自在の柔軟性によるところが大きい。それと、日本人すなわち単一民族と考えがちな日本人のメンタリテイのなかに溶けこんでいる斉一性。日本人がもつこの柔軟性と斉一性が、世界でも希有^(けう)なほど短時間、かつスムーズに第二次世界大戦後の民主主義を定着させた要因であろうと思われる。

ただ惜しむらくは、こうした日本人がもたらす日本文化の特徴をわれわれ日本人自身があまりよくわかっていない。

それもあって、海外にむけて日本文化のよさを説明できる人材が日本には不足している。たとえば明治時代に日本の文化や美術の価値を国際的に知らしめた岡倉天心^(注2)や新島襄^(注3)、あるいは鈴木大拙^(注4)のような人物がいまの日本にいればと思うが、なかなか

むずかしい。⁽⁴⁾美術品であれ工芸品であれ、これはこういうものですよという解説がないと、日本文化は海外で理解されにくい。とあって、日本の文化や芸術が難解というわけではない。そうではなく、日本の文化はなんでもそうだが、みずから多くを語らない。つまり寡黙な文化なのである。

西洋の芸術はおしなべて饒舌^(じょうぜつ)である。作品それ自体が、自分はこのなにすばらしいのだと主張している。あるいは絵画などはキリスト教と結びつき、教義という口を借りて雄弁に語りかける。

ところが日本の美術品、ことに仏像などは、一点をじつと見据えたまま何も語らない。なかには法隆寺の玉虫厨子^(たまむしのずし)「捨身飼虎図」のように釈迦^(しゃか)の前世の物語を描いた絵画もあるが、こういうものは日本美術の主流にはなっていない。メッセーじや物語をストレートに表現することをよしとせず、せいぜい仄めかすぐらいにとどめる。あるいはメッセーじ性には背を向けて、自然を愛^(め)で風流を尊ぶ花鳥風月の世界に遊ぶ。当てつけがましさが無いという意味では、非常にシャイな文化である。

寡黙でシャイというのは、言い換えると、作者と鑑賞者の距離が近いということだ。もともと作者と鑑賞者で共有し理解しあう部分が大いから、くどくどとした説明を意図的にはぶいた寡黙な芸術が成立するのである。あれこれ言わなくても、見る側にはちゃんとわかる。これを前提に成り立っているのが日本文化であろう。

あおやぎまさのり
(青柳正規

『文化立国論——日本のソフトパワーの底力』による。出題の都合上、一部改変した箇所がある)

(注1) 廃仏毀釈——明治初期に仏教を退けようとして、寺や仏像などを壊したこと。

(注2) 岡倉天心——思想家、美術運動家(1863～1913)。欧米を巡り、東京美術学校を創設した。

(注3) 新島襄——キリスト教徒の教育者(1843～1890)。

(注4) 鈴木大拙——仏教学者(1870～1966)。

問一 傍線部(a)・(c)・(d)の片仮名を漢字にしなさい。

- (a) カチク (c) ナガめ (d) ビンカン

(配点6点)

問二 傍線部(b)・(e)の漢字を平仮名にしなさい。

- (b) 愚行 (e) 添削

(配点4点)

問三

空欄 A

B

C

に入る最も適当な言葉を、次の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を記入しなさい。ただし、同じ番号は一度しか選べない。

(配点6点)

- ① ところで ② あるいは ③ ところが ④ もっとも
⑤ なぜなら ⑥ たとえば ⑦ すると ⑧ つまり

問四

次の文は本文の一部であるが、文中の I V のどこに入れるのが最も適当か。次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。

(配点3点)

あらためて日本の文化財の蓄積の長さと同様に驚かざるをえない。

- ① I ② II ③ III ④ IV ⑤ V

問五

傍線部(1)「正倉院の宝物」とあるが、これを証拠にどのようなことを述べようとしているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。

(配点4点)

- ① 日本古来の財宝を収蔵してきた木造建築は、海外では存在しえないものであり、日本独自の文化だということ。
- ② 島国である日本は、外敵からの侵略や略奪にあわなかったため、平和を重んじる穏やかな文化を生んだということ。
- ③ 日本の天皇制は、神話の時代から連続と続く日本文化の根幹であり、太平洋戦争後にも守られてきたということ。
- ④ 争いがなかった日本は、外敵に対する防衛機能を備えることもなく、長く文化財を保管することができたということ。
- ⑤ 日本は島国であり、奇跡的に文化の破壊につながる外敵の侵略や略奪から免れた、平和で穏やかな国だということ。

問六

傍線部②「そういう中国のすぐれた工芸品が日本にはいまもたくさん残っている」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。

(配点5点)

- ① 大きな戦争や紛争が少なかった日本では、価値の高い美術品や工芸品が外敵に略奪されることがなく、国によって厳重に保管されて伝わったから。
- ② 中国の美術品や工芸品は、室町時代頃には日本からの注文によって数多く伝来し、その時代の権力者や寺社、金持ちがその所有者となったから。
- ③ 価値ある美術品や工芸品は時代の移り変わりとともにその所有者を変えながら、大切に代々継承されるよう、日本では長らく平和が保たれてきたから。
- ④ 室町時代あたりの日本で中国の工芸品に対する人気が高まり、多くの品々が注文されて流入したことで、日本人にとって身近なものとなったから。
- ⑤ 日本国内にある貴重な美術品や工芸品は、戦争や略奪などの有事に備える手段として所有者を次々に変えることで、長らく受け継がれてきたから。

問七 空欄

X

に入る最も適当な言葉を、本文中から四字で抜き出しなさい。

(配点3点)

問八

傍線部③「日本古来の神さまと大陸からやってきた仏さまが仲よく手を組んだのである」とあるが、どういふことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。(配点5点)

- ① 日本人は、日本文化とは異なる大陸の外来文化を柔軟に取り入れて融合することで、既存の文化を巧みに作り変えて外来文化の表現や形式に同化させたということ。
- ② 大陸から仏教が伝来した後、日本人は既存宗教を存続させるためにあえて仏教を排除せず、神仏習合という形式を生み出すことで、大陸の勢力から日本を守ったということ。
- ③ 日本人は日本古来の文化を重んじる一方で、流入する外来文化との対立を避けて融和し共存することで、平和な関係を築き上げるため互いの文化を尊重し合うようにしたということ。
- ④ 日本人は、外来文化を異質なものとして拒絶せずに柔軟に受けとめ、うまく日本古来の文化の中に取り入れて自在に変化させ、日本文化と巧みに融合させたということ。
- ⑤ 古来日本人は、異国の人々や外来の品々を排除せずに親しく接して外来文化を学ぶことで、はじめて自らの適性に合った独自の文化を生み出すことができたということ。

問九

傍線部④「美術品であれ工芸品であれ、これはこういうものですよ」という解説がないと、日本文化は海外で理解されにくい」とあるが、筆者は日本文化をどのように捉えているか、六〇字以内で説明しなさい(句読点を含む)。(配点10点)

問十

本文の内容に一致しないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記入しなさい。

(配点5点)

- ① 日本の社会や文化に見られる特徴は、恵まれた自然環境がもたらす農業の豊かさに支えられ、育まれたものである。
- ② 日本は外来文化による侵食が少なかったため、古代から近代まで社会や文化が根底から覆されることはなかったといえる。
- ③ 日本人は、自らとは異なる外来の人々や文化をあるがままに受けとめながら、日本古来の文化や生活様式を守り伝えてきた。
- ④ 古来日本人の心的傾向として備わった柔軟性や斉一性が、戦後まもなくの日本に民主主義社会を成立させたと考えられる。
- ⑤ 西洋の芸術は、宗教に基づく物語や教えとしての主張の表現である点で寡黙でシャイな日本の芸術とは異なっている。